朝日遺跡の風景

1 液化性の調査区

2

3

4

5

6 ウェルポイントの破壊

7 ウェルポイントの故障

4 ウェルポイントの故障

5 湧水との格闘

6 湧水への適応

7 雪中発掘

自然との接触

8 朝日遺跡の原風景

朝日遺跡を南西上空から望む

遺跡へ舞い降りる

10 南方上空から望む　11 南東上空から61E・61H区を望む　12 西上空から61H区(北地区)を見る
13 SB45周辺を東から見る　14 61H区(北地区)を西から見る

大形方形周溝墓

15 SZ208を北から見る
16 SZ208を真上から見る
17 SZ208付近をより上空から望む

39 B区上層遺構群（縄文住居跡）

方形周溝墓と重複、両脇に挟まれた銅鐸埋納坑（矢印の先にある白い点）が見える。外濠東（左の海）が銅鐸埋納坑を避けているように見えることに注意。通常なら墓墓は方形周溝墓北溝（周溝右手部分）に重複して設けられる。

朝日遺跡の銅鐸

20 銅鐸出土状態（東から見る）

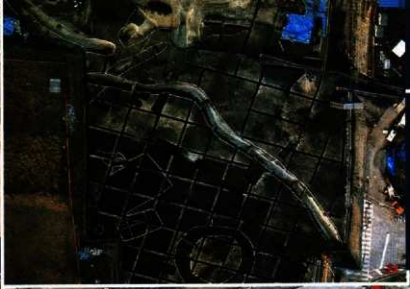
銅鐸埋納坑を少し掘り下げた状態である。左右の窪みやその壁面に見られる灰白色の土は、上部に堆積していた古墳時代以降の土層が重機など重量物のために弥生時代包含層である黒褐色砂質シルトにめりこんだあとである。

他にも中世方形土坑などが埋納坑に近接し、こうした状況にあって銅鐸はかろうじて現在まで残り得たのである。

※銅鐸の出土時の状態とクリーニング後の状態

銅鐸は錆化が進行し、非常に脆くなっていた。下の写真は取り上げ後クリーニングを施し、再度埋納坑内に置いたものである。付着した土は充分に除去できていない。

銅鐸はその後、奈良国立文化財研究所において保存処理された。

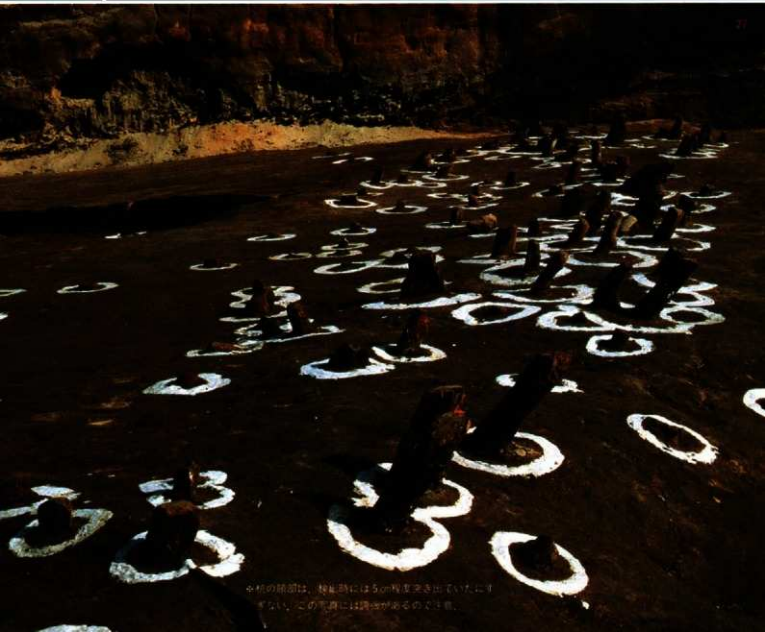


朝日遺跡の防御施設は、弥生時代後期に比べて弥生時代中期のまっはるかに複雑な構造をとっている。これは中期の防御施設の変化として説明できるものではなく、朝日遺跡に固有な集落としてのあり方に深くかかわる問題である。とくに中期を特徴づける環濠は、中事前半（八間）と四本（川わ断）の2時期に存在しており、"環濠帯"としての連続性を持っている。もちろん大局（表）の配置関係からみてはあるが、より詳細に見て北側住域に隣接する防御施設がそれ、とは断言しないのであり、こうした連続性は朝日集落の連続性を保証していると考える。

それに対して後期の南北二環濠という状況は、構造物の不連続性さえも感じられるように、中期とは別の朝日集落の営みを示すものであり、同系列として扱うわけにはいかないのである。

防御施設

23 〈南居住区〉弥生Ⅴ・Ⅵ期遺構群、環濠北部の切れ目を東から見る、61H区、
24 24を上空から見る、
25 〈北居住区〉弥生Ⅴ・Ⅵ期遺構群、環濠東部の状態、61E区、東から見る、
26 〈北居住区〉南縁のⅢb期逆茂木検出状態、61A区SX02、
27 〈北居住区〉南縁の乱杭（SXⅠ）検出状態、61A区、西から見る、



木杭の根部は、検証時にはちゃんと残されていたにすぎない。この写真には説明がないのでさて、

61A区下面遺構群

▲SX03　▲SX1

溝内に倒れこんだ柱？部材（SX02）

牛製装身具出土状態（SX02西部）

33 逆茂木 立杭他 SX02西部

32 SX02東部 逆茂木

33 32の拡大

34 SX02西部 逆茂木の基部

35 34の拡大

防御施設

特殊な構造物

61E区SX01 南東から見る

36の近景

遺物の出土状態

38　62Ⅰ区SE01 土器群上位
39　62Ⅰ区SE01 土器群中位
40　62Ⅰ区SE01 土器群下位

41　60E区方形周溝墓周の供献土器
42　63D区環濠開盛土下出土の大形器台

61A区東壁

土層セクションのいろいろ

谷B北壁1 63B区

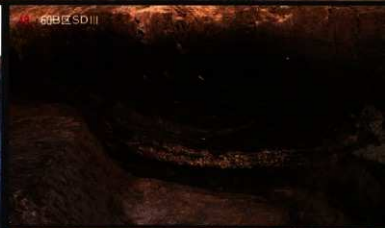
谷B北壁2

60B区谷A東壁

61A区SDIII

61N区SZ206東周溝

61T区SZ301北周溝



60B区SDIII

60B区SDIIIb

89B区SK72

89B区SZ162墳丘 ベース土のブロック

調査風景

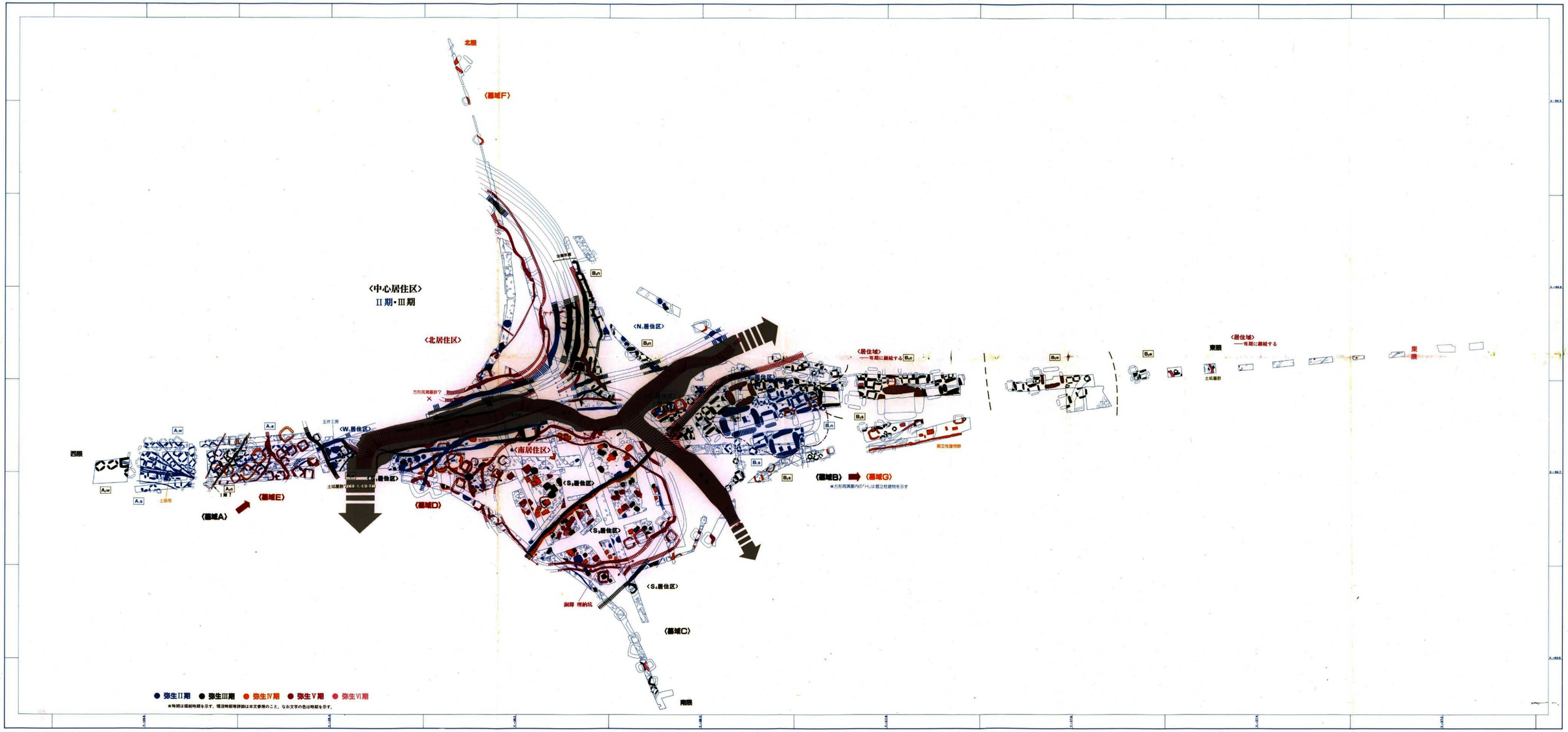
サンプリング

はぎ取り

現地説明会

朝日遺跡弥生時代全体図

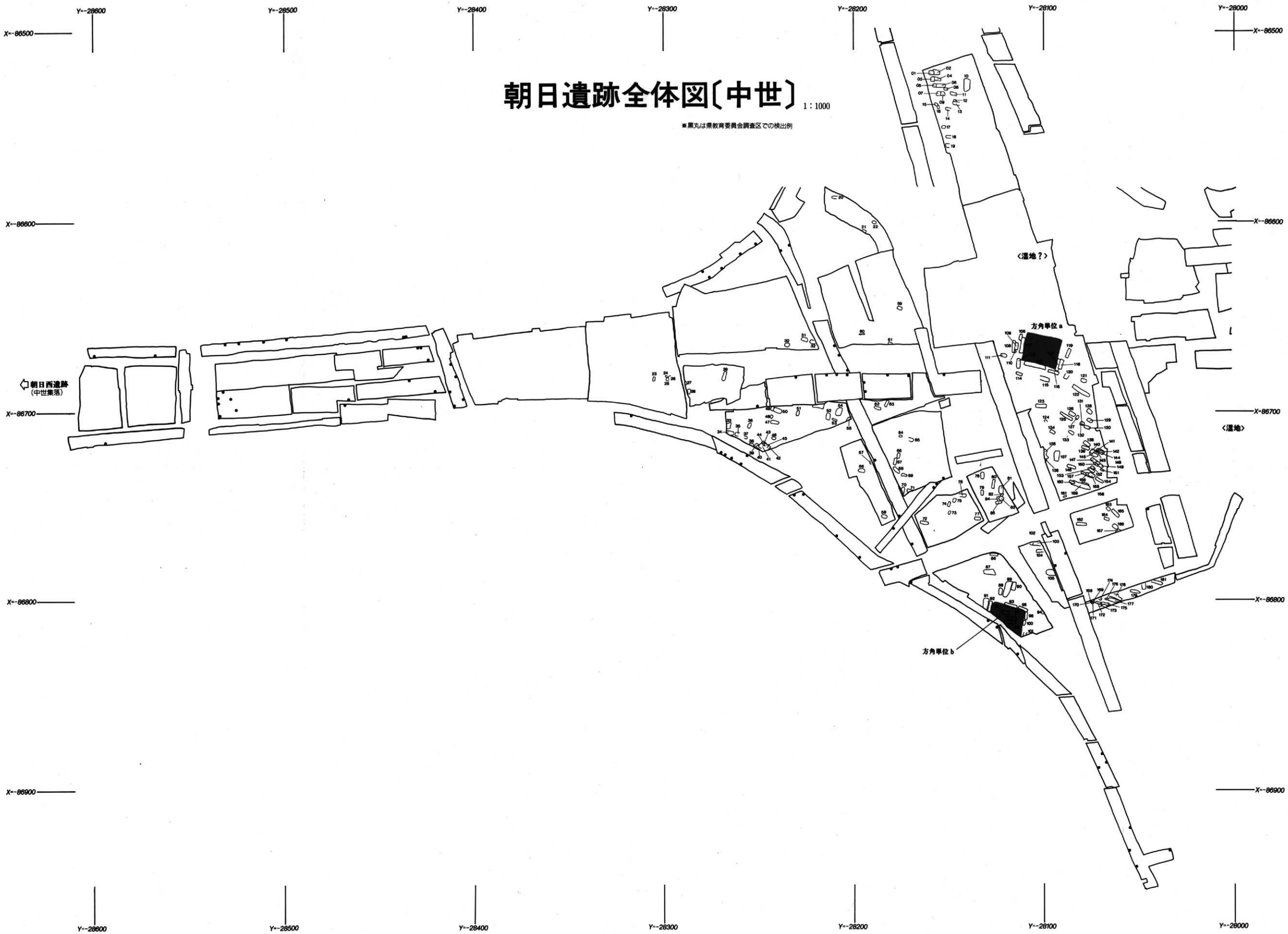
スケール 1:1600



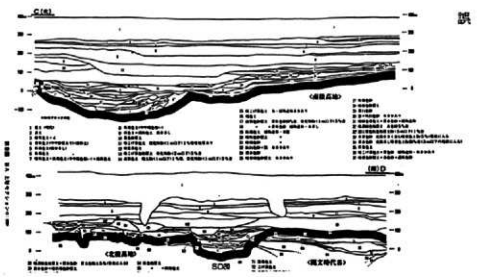
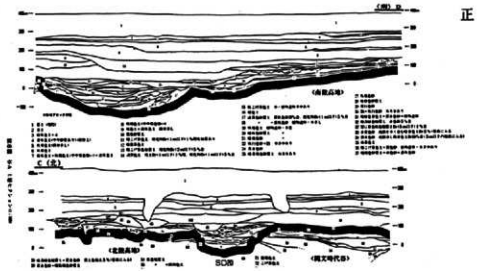
財団法人　愛知県埋蔵文化財センター

朝日遺跡全体図〔中世〕 1：1000

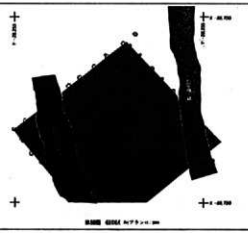
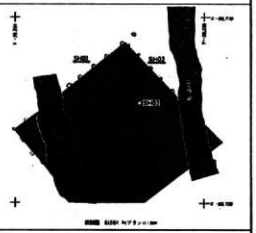
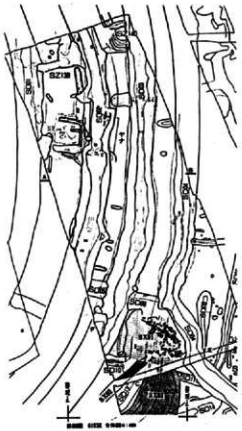
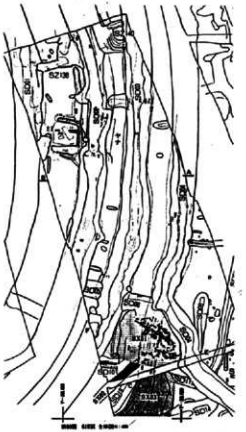
※黒丸は県教育委員会調査区での検出例



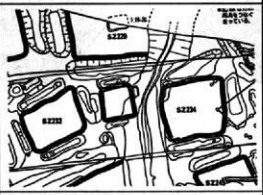
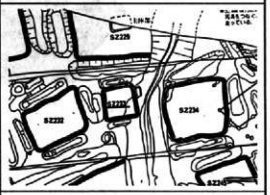
正　誤　表　（1）

ページ	行	誤	正
例言6		第Ⅱ部第1章1	第Ⅱ部<u>は</u>第1章1
25	図8	 誤	
		 正	
26	1	第　図	第<u>3</u>図
38	32	Ⅴと再掘削の	Ⅴと<u>Ⅴ期末からⅥ期初頭</u>再掘削の
40	1	同じⅥ期だが、	Ⅵ期だが、
40	3	Ⅵ期に	Ⅵ期<u>（Ⅴ期末に遡る可能性はある）</u>に
43	16	主体部4は	主体部<u>3</u>は
43	18	部4の	部<u>3</u>の

正　誤　表　（2）

ページ	行	誤	正
81	図58		
83	図60		
89		※スクリーン・トーン部分は編物	※スクリーン・トーン部分は<u>編物・植物茎</u>
90		※スクリーン・トーン部分は編物	※スクリーン・トーン部分は<u>編物・植物茎</u>
127	4	Ⅴ期とⅥ期	Ⅴ期と<u>Ⅴ期末から</u>Ⅵ期

正　誤　表

ページ	行	誤	正
１３３	１０	第１０３図	第１０２図
１３４	図103	炭火物と焼土	炭化物と焼土
１３７	１９	ＳＤＸⅦはⅥ期	ＳＤＸⅦはⅤ期末からⅥ期
図版７１			

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第30集

朝　日　遺　跡　I

1991年3月31日

編　集
発　行　財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

印　刷　株式会社 クイックス